

云ふ熱情を披瀝する野依社長の情熱と云ふものが、國家的にも非常な働きをなしてゐますから、熱情の披瀝として非難することはないでせうな』

讀『なる程、それに私は今度つくづく感じたことがあります。政友會が總裁問題で中島派と久原派とが分れた際、帝日が徹底的に中島派を擁護しましたね。あの時は、多少金銭關係があるのではないかなと思ひましたが、それから後何處までも書き立て、行くあの態度を見ては私は遂にこれはとても金銭關係でやれることではないと、つくづく感服しました。それに今度の望月さんは貧乏人と來てゐるし、その人のために、あれ程書かれたと云ふ事實によつて愈々私は帝日の中島擁護に就ても好感を持つやうになりましたね』

記『全くあなたは有難い事を云つてくれますよ、實際さう云ふ風に見るのが當然だと思ひますね』

讀『時に、望月さんは借金がウンとあつたでせうか、それとも遺産があるのでせうか、御見當はどうですか』

記『野依社長が編輯局で話してゐたところでは借金らしい借金はないやうですな。兎に角、望月さんと云ふ人は、無理をしなかつた人ださうですね。借金までして、自分が地位を得やう

とか、勢力を張らうとか云ふ考へはなかつたさうですね。遺産は家屋敷に書畫を入れると二、三十萬の値打があるんじゃないかと云つてゐましたね。家屋敷も何んでも内務大臣になつた時に乾分連中からの貰ひ物ださうです。それは捨賣にしても六、七萬圓のもの、買手によつては十萬圓の値打はあるとかいふ話ですよ。

それにあ、云ふ各方面に人情を以て世話したんですから、書畫などの貰ひ物が随分あるやうですね。竹内栖鳳の若い頃に描いた六枚折の金屏風に孔雀と云ふのがあるんださうですね。之れが三萬圓の値打があるとか云ひますね。又、伊藤公の六枚折の屏風に詩を書いたのがある、之れも何萬圓の値打があるさうです。それから懸軸が大變なものださうです、無論百本以上と云ふ噂です。

その代り無論、銀行の預金などと云ふものはない。その上に保険金も何んでも二三萬ぐらゐつけてをつたのではないですか。何さま、長い四十年間の政治生活の中には、一ぺんは親爺の百萬圓以上の財産を喰つて了つたのですから、今云つたやうな貰ひ物だけが遺産となつて残るのでせうな』

讀『なる程さうですか、それで私も他人ごとながら安心したやうな氣がしましたよ、然し遺族

の模様はどうなんでしょうか』

記『娘さんが三人あるが皆お嫁に行つたんです。ですから今度の喪主も長女の婿大石家の長男がそれに當つたんです。その人が、望月家を繼ぐらしいです、その他には正式にはなつてをらないが、後妻が一人と、同居してゐる妹さんが三人があるんぢやないでか。それも皆六十以上のお方ばかりですから、遺族の始末も都合がいゝわけですね』

讀『いや、どうも之れは、餘り内情に迄立ち入つてお訊ねして濟まなかつたです。時に遺言と云ふものがなかつたんでせうか』

記『何んにもなかつたさうですよ、それはキレイサツパリなもので、書いたものもなければ言葉もない、一身上のことと云ふものは何んにもないのです、只政治上と國家上の事ばかりであつたさうです。それも多くは半分はうは言だつたらしかつたです……ではこれで失禮さして貰ひませう、さよなら』

(一六、一、八)

死に就いた頼母木市長と

左團次は何に生れ代るか

(附けたり)

△死後の問題を解決する只一つの鍵

△地獄極樂は本當にあるのか

讀者『私は帝日の愛讀者ですが、あなたの方の野依社長が頼母木市長の事を書かれたのを讀んで、大變面白く思ひましたので電話問答をしたい氣になりました。それは他でもありません、私も東京市役所に勤めてゐるもので、市長が死なれてから何だか無常を感じるやうになつたのです。それで、けさ程、電話をおかけしたら、そのことなら係の記者が未だ來ないから午後にして呉れと云ふお話しがあつたのですが……』

記『あゝそうでしたか。それでは「眞宗の世界」の方の記者に出て貰ひますから、一寸待つて下さい。……では私が代つて承りますが、先づあなたのお尋ねになりたい事を仰言つて下さ

』

讀「これはどうも御苦勞様です、それでは、どうかお願い致します。私は未だ何だか頼母木市長が生きてゐるやうな氣がしてならぬのですが、それでも葬式が済んだから間違ひはないのでせう。それで一體市長が死んだ先はどうなつたのか、よく死の問題とか死後の生活とか、いろいろ死についてこの頃時節柄取沙汰されますが、一體どうなるんでせうか。帝日では宗教欄がある位だから、かう云ふ事も明快に回答して下さいと思つて、電話を掛けた次第ですが如何でせうか」

記「さうですか、それは至極御尤もです。誰でも死ばかりは結局免れる事が出来ないので、それでも身内のものが死ぬとか、ごく懇意なものが亡くなつたりすると、今更の如くに驚き入つて、自分も一度は之だけは免れないと云ふやうな事に氣が附くものですね。その點私など幸ひにも縁があつて、未來往生死後の問題だけは解決させて貰つてゐます」

讀「全くその通りですね。私もその馬鹿らしい一人なのですが、今度頼母木市長の亡くなられた事によつて、今更の如くに目が醒めたわけです。ところがこれが又私ばかりでなくて、私の他にもさう云ふのが幾人もあるのですからたまりませんね。」

實は昨日市役所で私達友人が晝飯の時に話し合つたのですが、未だ何だか市長が死んだや

うな氣がしないね、でも皆死ぬんだが、死んだら一體どうなるんだらうと云ふ問題が起つたのです。それで帝日なら宗教欄があるから、一つ電話問答やらうぢやないかと云ふ事になつたんですよ。電話問答にかゝると、どんなむづかしい問題でもやさしく解りやすいから、この死の問題も解りやすく解決して貰へるんぢやないかと思つた次第です」

記「それは寔によいところにお氣付きになりましたね。皆んな死にますよ、頼母木市長も死にましたが、左團次も死にましたね、兵隊さんでも随分亡くなられますから、死の問題を解決することは最も必要ですね。」

どうしてもこの問題は宗教にゆかなければ解決出来ません、ところで世間では、宗教の信仰に入るのには何か機會がなければ入れるものではない、何か非常な衝動を受けなければないと云つたりします。たしかにそれも一つの見方ですが、しかし衝動といふものは皆んな各人がもつて居るのですからね。それはです、世界中に眞に平等といふものは全くありませんが、たゞどんな人間でも、どんな身分の高い人でも、死の前には平等です。

さあそこですよ、問題のあるのは、誰も死ぬるといふことを考へたら、人間にとつてこれ程重大な、これ程にたまらない衝動は無いでせう。それでも仲々氣が附かないといふのは、

あまりに間違つた話で、誰も彼も免れないことだから却て不思議とも思はず、気がつかずにあるのですね。

それでも愈々死ぬると云ふ事になつて来ると、あはて、煩悶したりしますね、そして死ぬる時みつともない死に方をするのもありますね、だから世界で一番かしこい人にならうと思ふならば、この死の問題を解決してをくことです』

讀『全くその通りです、今度頼母木市長の死に際會してつくづく今のお話を感じました。それで私も電話問答に掛つてみる氣になつた譯です、これは大變だ、頼母木市長の死ぢやない、自分の死が問題ぢやないか、市長が死んで何處に行かうとそんなことはどうでもよい、自分の事を考へなくちやならぬ、人ごとではないと云ふ事はつきり判りました。

頼母木市長も死んだが、あの名優の左團次も死んだと、今更の如くに驚いたわけですよ。併し死んだものは今に始まつたわけではないのですが、免に角頼母木市長の死が縁になつてこの問題が解決されたら、私はどんなに幸福かと思ふのです』

記『實にいゝところにお氣づきになりました、この問題を解決しておきますと總てが氣樂です。それはその筈で、人間として一番重大な問題を片附けるのですから、氣樂になれる筈で

す。そこであなたの私にお尋ねになりたいと云ふ要點は、どこにあるのですか』

讀『一口に云へば、死んだらどうなるだらう、死後の生活と云ふものがあるだらうか、どうだらうか。又死ぬる時に安心して、ばたつかぬやうにするには、どうするがいゝかと云ふ事なんです』

記『あゝさうですか、わかりました。死後の生活はありますね、人間でもその他一切の動植物でも、みな悉くこの宇宙間の産物でせう。ですから死ぬると云ふ事は自分の生れた家に歸るやうなものですよ、宇宙と云ふ大きな中に歸つたわけですね。そして又再び、何者かに生れ變ると云ふ事になりますね。

と云ふわけは、人間を始め一切の動植物、その他の宇宙を構成してゐる一切のものゝ根本要素は同じでせう。ですからその人間が死ぬると云ふ事は、根本要素の中に歸つたわけで、そこから又何ものかに生れ變つて來るのが、當然と云ふ事に相成るぢやないですか』

讀『成る程、さうですなあ。人間始め萬物が皆この大宇宙の中に發生したものである、この吾々人間の住んでゐる地球ばかりでなくて夜見る星が皆地球のやうなもの、或は太陽が一つと思つたら大きな大間違ひで幾百萬もあると云ひます。實に宇宙と云ふものは人間の小智を以

てしては到底想像がつかぬです。たゞ恐ろしいと思ひ、たゞあきれ返ると云ふの他はありませぬ。吾々も學校で教はつた事だが、太陽がなければ地球に生物は發生しません、さうすると地球に生れる一切の生物と太陽との關係は、離るべからざるものがあると云ふ事になりませぬ。

成る程この地球に發生した人間が死ぬると云ふのは、なくなつたわけでなくたゞ形を變へただけなんですから、死後と云ふものが空々寂々たるべきものでないと云ふ事が、理屈上から判ります。然らば、それが一體どう云ふものになると云ふんでせうか』

記『あなたは失禮乍ら、多少宗教の方面の書物でもお讀みになつた事があるんぢやないですか、先き程あなたは頼母木市長の死が縁となつてと申されたが、私あの時は、これは多少佛教の事など知つてゐる人だなあと思つたのでしたよ』

讀『實は私は廣島縣のもので、安藝門徒と云つて世に名高い本願寺門徒の多いところに生れたものですから、幼少の頃から家が淨土眞宗である關係上、多少佛教の話聞いては居りますが、まあそれが一つの縁でせう。今度市長の死によつて、むらむらと後生の一大事と云ふ事に氣づいて來たわけなんです』

記『さうでせう、先き程からのお話を承ると、何かあなたにはかうした下地があるのぢやないかと思はれたのです。そこでですね、死んだらどんなものに生れ變るかと云ふ問題ですが、これは佛教で云ふ輪廻轉生の説で解決出来るでせう。人間は前世があつて何遍も轉々として生れ變つたと云ふのですが、私共最初これを信ずる事は出来ませんでした。

殊に釋迦本生譚と云つて、釋迦如來が佛になるまで、つまり、大きな悟を開き無我の境界になり、大宇宙と自分とは同じであると云ふ悟を開かれて釋迦牟尼佛と仰がるゝまでに、前世と云ふものが五百遍あつて、或る時は木に生れ、或る時は虎に生れ、或る時は商人に生れ、或る時は王に生れたと云ふ風に、釋迦如來が過去五百遍生れ變つたと云ふ物語りを書いた本があります。私もあの書物を讀んだとき馬鹿らしい、こんなとぼけた事を佛教では云ふから佛教は時代遅れだ、だから佛教の信者は爺、婆、無學者に限ると云ふ風に考へて居たのです。併しその後、天文學だの地文學だのを勉強しました結果、なるほど釋迦様は偉い、世界の大神とか、宇宙の光だとか云はれたりするだけあつて、偉いことを釋迦如來は云はれたものだ、さすがに佛教はえらいものだつくづく感じたのですよ。

その譯といふのは、先き程あなたが申されたやうに、この地球に住んでゐる生物は太陽の

おかげを蒙つてゐる。そしてその太陽は吾々が見る他に、何百萬あるか知れないといふやうなこの大宇宙の事を考へたり、この地球の上の生物の發生するのを考へたりしますと、佛教の言葉でいふやうにこの萬物の發生し來る根本は地、水、火、風、空といつて、それらが萬物を生み出す元である。今日の言葉でいへば元素である、電子であるといふ事になる。佛教ではそこまで細かく分析はしなかつたが、土でも水でも、火でも、結局はその構成分子の極致は目にも見えない電子といふ事になります。

そしてそれがあらゆる宇宙の物質の根本となつてゐるのであり、そこから土やら、水やら、火やらが出現して來る、さうすると今度はそれらの中から佛教でいふ地、水、火といふものが出て來た事が判ります。又その中から、人間その他の動植物が幾百、幾千、幾萬となく形を變へて生れて來るぢやないですか。そしてその生物はどんなものでも、必ず死と云ふ形に於て悉く消滅するやうになりますね。併し、形が變つたゞけで決して人間その他、一切の萬物を形成してゐるところの根本の要素が無くなつたわけではなくて、萬物の死と云ふ事はその銘々を出現せしめた根本に、一應還元したと云ふ事になります。さうするとそこから又、何者かに生れ變り出づるものに違ひないと云ふ事を、深く／＼私は信ずるやうになつた

のです。

成る程釋迦如來はえらい、御自身の事を過去に於て五百遍も生れ變つたと物語られた事は、何と云ふ雄大にして莊嚴な思想であらうかと、實はつく／＼感服したのです。たとへこれが釋迦如來の本當の物語でなく、一つのお伽話の如きものであつたにしても、私はこの一大眞理を決して疑ふ氣になれません。どうでせう、こんな事で人間の死後の生活があるもんだと云ふ事を、御承認願へませんか』

讀『成る程、今のお話を伺つて實に感銘に打たれました。全くさうですなあ、この地球だけから云つてみても、人間として百歳以上生きるものは殆んどないが、今日まで何十億、或は何百億と云ふ人間が死んでゐるでせう。その他どんな長壽の大木でも、五千年とは生きて居らんでせう。

さうすると、人間始め一切の動植物は皆一度は死ぬる、そしてそれが又、次から次と生れ變つて來ることを考へると、成程私達が死んだ後には、それが又何時か或は人間に生れ、或は犬に生れ、或は大根に生れ、鳥に生れ、その他どんな生物に生れ變るものか分らないと云ふ事が、つく／＼恐ろしいやうに思はれるやうになりましたね。成る程、人間の死はアクビ

したやうなもので、死後は何んにもないものだと言ふ風に簡単にかたづけられるのは淺慕な事です
ね。

いやどうも誠に有難う御座いました、そこで地獄極樂など言ふものもあるものだ、と言ふ事になつて來るのですか』

記『無論さう言ふわけです。この人間の小智をもつてして、地獄極樂などと言ふものはあるものでないなどと、云へるものでないです。この宇宙の廣大無邊を考へたら、目に見えないから地獄極樂がないと云つてひやかすものがありますが、目に見えないから信じられんと云ふならばラチオはどうなるかと云はざるを得ない。今日學問が發達すればする程、科學が發達すればする程、佛敎が今から二千五百年前に途方途徹もないことを云つた事が、疑はれなくなるやうな傾向になつてゐます』

讀『全くその通りですなあ、極樂が西方十萬億土の向ふにあると云つたとて、太陽が何百萬もあると云ふやうな事を考へると、極樂淨土の事を疑ふと云ふ事は馬鹿と云ふ事になりますね。それはそれとして、然らば地獄に生れるもの、極樂に生れるものはどう云ふ事になるのですか。

又地獄極樂とは云はなくても、死して後人間は再び人間に生れるかも知れないが、或は又犬猫に生れるかも知れない。人間でも黒色人種に、或は黄色人種に、或は白色人種と云ふやうなものに生れると云ふやうな事は一體どうなるのでせうか。私達は寔に幸福にも日本國民に生れて來たのであるから、再び同じ人間に生れるにしても、日本人に生れたいと云ふ氣に満ちてゐるのですが、さう云ふ事は一體どうにかなり得るものですか、どうでせう。

私達子供の時、善因善果惡因惡果で、いゝ事をすればよいものに生れる、悪い事をすれば悪いものに生れると聞かされて、悪い事をしてはイケないと教へられてゐたのですが、そこで、阿彌陀佛に救はれると極樂往生出來ると云はれますが、その邊の事を一つお話願へませんか』

記『承知しました。佛敎では因果の理を説きますね、善因善果、惡因惡果と云つて善には善の報ひが來る、惡には惡の報ひが來る。それからよく御因縁と云ふ事を云ふでせう、あれは自分が悪い事をすれば悪い結果があらはれると云ふんです。

惡に限りません、善でもよいが、その自分のしたところの行爲、いはゞ行ひです。佛敎ではこれを業と云ひますが、つまり心で思つた事眼や口や鼻によつてした事、要するに身心

を以てした自分の行爲が因となつて、その結果が現はれる。その結果のあらはれるのには、こゝに東京市長になると云ふ働きと云ひませうか、資格と云ひませうか、さう云ふものがあつたとしても、然しそれを事實に現はすところの働き、即ち縁と云ふものが無ければ市長と云ふ果を現はす事が出来ないのです。

それで頼母木さんについて云つてみるならば、あの人が市長となる色んな資格、働きをもつてゐる、それが市長となる因です。つまり原因ですね、資格ですね。そこへもつて来て、三木武吉と云ふものが働きかけて、市長になる縁を作るとしますかね、その結果市長と云ふ果があらはれるのですよ。そこで詳しく云ひますと、因縁果と云ふ道理によつて人間始め、總てのものゝ生れる事や、生れた後の動きなどが結果を結ぶ次第です。

然るに、それを果といふ結果の事はいはずに、結果を來たす因と縁だけをいふのですから、そこで因縁、御因縁といはれて來る次第であります。だから地獄に生れる因を作れば、何かの縁によつて地獄にゆくわけです。極樂にゆくのもその通りで、まあこんなやうなわけです』

讀『どうも有難う存じました、大分判りました。さうするとつまり何ですね、地獄に墜ちるや

うな事をしてゐても、阿彌陀佛の御慈悲を信すれば極樂に行けるといふ事になるのですか。かういふ事も、私は子供の時に聞いて居りますが、たゞ聞いて居るだけで一向判らないので、どうか教へて下さいませんか』

記『佛教の罪惡觀から申しますと、人間で罪を造らないものはないと云ふので、又、實際徹底的に考へると本當に淺ましい事ばかりです。そこで人間が如何に努力しても、どうしても極樂に生れて佛にはなれない、つまり悟りを開いた人間には成り得ない。そこを阿彌陀佛が何十、何百何千萬年か、何憶年かしれない大昔から、一切の衆生を佛にしてやりたいと云ふ本願を、未だ阿彌陀佛とならない法藏菩薩と云ふ時代に起したものです、そしてその本願が成立したのです。

それで法藏菩薩が阿彌陀佛と云ふ、無量壽無量光の徳を具へた悟つた佛となつたその時に、一切の衆生は救はれたと云ふ事に相成つたのです。だから吾々凡夫がその阿彌陀佛の、どんな惡人でも、どう云ふ嘘つきでも、悪い事をしたものでも、必ず救つてやると云ふそのお慈悲を信じさえすれば、何時どこでのやうな死に様をしても必ず極樂往生が出來ると云ふのです』

讀『成る程、さうすると阿彌陀佛のお慈悲を信じて、阿彌陀佛に縋つた氣持になればそれでいいわけなんですか、至極簡単ですね、どうして一體さうなれるのでせうか。善因善果、悪因悪果と云ふ道理から云へば、悪をなしたものは悪の結果を受けなければならぬわけではないですか。

それがどうして、阿彌陀佛を信ずれば極樂往生が出来るのですか、悟を開いた人間になれると云ふのですか、どうも可怪しいですね』

記『その疑問がお有りになるのは當然ですが、然しそれはかう云ふ事です。阿彌陀佛が一切の衆生を救ふと云ふ本願を起して、どんな悪人でも嘘つきでも一切の衆生が必ず成佛し得るやうな功德を、それだけの善を、阿彌陀佛が吾々衆生の代りにお苦勞下さつたのだからです。いはゞ紙切れ一枚で、歌舞伎座の芝居が見られるのはおかしいと云ふ理屈は一應たつが、しかしその紙切れ一枚の裏には、金と云ふものを支拂つてゐるから紙切れがものを云ふのです。

それと同じやうに、阿彌陀佛のそのまゝ救ふぞよと云ふ慈悲を信じ、自分の一切を阿彌陀佛に打まかせたその時に、つまり信の一念によつて吾々凡夫の心の中に、阿彌陀佛の大慈悲

が奥深く入り込んだわけです。而もその吾々が阿彌陀佛を信仰する力、阿彌陀佛に自分を打ち委せた力と云ふものが、自分自身の力でなくて阿彌陀佛の大慈悲によつてさう云ふ事になつたのです、つまり他力です。ですから吾々が信仰をしたその後は、何時何處でどのやうな死に様をしても、極樂往生疑ひなしと云ふ事に相成るのです』

讀『成る程判りました、他力他力と子供の時から聞かされて居りましたが、さう云ふ事を云ふのですね』

記『さうです、朝も晩も心の變る吾々凡夫が自分で阿彌陀佛のお慈悲を信仰したと申すのであれば、それこそ、その信仰は又何時どのやうに變るかも知れないが、絶対に動きのない阿彌陀様の大慈悲が遂に凡夫の心にくひ入つて、信仰心が起つたのであるからもう大丈夫です、即ちこゝが他力本願なのです』

讀『成る程、他力と云ふ事がよく判りました。他力と云へば何だか意氣地ない様だが、凡夫が佛になると云ふ點だけでは阿彌陀佛の他力による他はないと云ふ譯ですね。そしてその他力によつて自分の極樂に生れる大慈悲が頂けるのですね、結局他力が自力となるのですね。併し未だ疑ひがありますが、幾ら阿彌陀佛がどんな悪人でも救はれるとしても、矢張り出来る

だけいゝ事をした方がいゝんでせうね。同じ極樂に生れるんでも、同じ阿彌陀佛に救はれるとしても、多少この世に於ける善惡の程度によつては違ふでせうね』

記『さうぢやありません。一切無差別です。どんな善人でも悪人でも救はれるのは同じです。つまり太陽のあの燃え中つた上にプチ込めば、どんな硬いものでも柔いものでも、奇麗なものでも穢ないものでも、みんな同じにとけてしまひますが、恰度阿彌陀佛の大慈悲と云ふものはさう云ふものです。』



國民道德とか社會道德とか云ふ點から云へば、差別がなければならぬですが、宗教は救ふに就てはよりごのみなく同一に救ふと云ふのでなければ、一切の衆生を救ふと云ふ大宗教にならないです。さう云ふ阿彌陀佛の大慈悲の前に出ると、どんな悪人でもどんなしぶといものでも大抵參つてしまひます、相手が絶対ですからね。そしてその絶対のお慈悲を頂くと、おかしなもので死後の安心も出来、何時どこで死んでも大丈夫と云ふ大安心、大勇氣が出来ますよ。

そして銘々のもつて生れただけの力を發揮して、國のため社會のためにつくし、自分自身も向上するやうになるものです。それは同じ信仰を頂いても、さう云ふ風に充分ならぬものもあるでせう、そこには即ち前世の業、因縁の如何によつて違ふものですよ。早い話が、我が野依社長の如き大の阿彌陀佛信者で、あれ程の縦横無盡の活動してゐるものもありますが、同じ信仰を頂いてもそれ程でないものもあります。大變お互の話が長くなりましたが、一應この邊で終りとしまして又御質問を受ける事にしたいと思いますとおもひます』

讀『何だか大變あかるいゝ氣持になりました、又お伺ひしますからよろしく願ひます』

—寫眞は故頼母木桂吉氏(右)と故市川左團次丈(左)—

(一五、二、二五)

市長選挙で若槻が大久保に負けた真相

(附けたり)

△憤激を買った三木武吉一派の態度

△永井と伍堂、三木と大神田

讀者『第八代の東京市長を決定する東京市會は、頼母木市長歿後五十三日目、決選投票の結果、現市長代理大久保助役の市長昇格が決定した譯ですが……。何んと言つても大久保氏の投票は過半数を制せず、僅か七十一票しかないのです、今後助役の銓衡その他山積する諸問題で難關に逢着し、市政は更らに紛糾するものと思はれますが如何でせう』

記者『民政系の市會議員達が窮餘の一策として若槻禮次郎男を擁立し、決選投票に臨んだが、理想候補の若槻男は僅か七票の差で敗れた譯ですから、今後の紛糾混亂はいよゝく豫想されませう』

讀『今日まで市長候補として問題にされて居た人は随分ある様ですが、それ等の人達が候補にかつがれる迄のイキサツはどういふのですか』

記『最初、民政系の小坂梅吉等が徳川義親侯を持ち出し、従つてその銓衡委員會では徳川侯を市長候補に決定したのですが、食指大いに動かんとした徳川侯は、揃らずも徳川一門の反對を買つて餘儀なく勇退したのです。

で、市會の民政系は最初のスタートに失敗し、之がため革正會内が揉めて來、その裁斷を八並東京市部長に一任して來たので、迷惑したのは民政黨東京支部です。一體に民政黨本部の建前は、東京市會の事には關係せぬ事となつて居るので、困つた問題を持ち込まれたものだ、支部の幹部も非常に弱り切つて居たのは事實です。

次に現はれたのが元商工大臣の伍堂卓雄です。尤も若槻男を擁立した事は窮餘の一策と思はれませんが、頼母木市長の時にも最初は徳川家達公を推薦し、次いで宇垣一成大將も問題となつたので、大物を立てるとなると矢張り此の方面の人物が覘はれる事になるのは不思議はないのです』

讀『市會各派の分野は、何ういふ風になつてゐるのですか』

記『各派の現有勢力を數字で示すと、かういふ事になります。

民政革新會が四十八名、政友系が四十一名、社大が二十名、愛市同盟(民系)が十九名

無所屬が十二名、革新會が十一名、第一が一名といふ分野になつてをります。

そこで民政系が結束を強固にして居れば、社大その他と提携して或る程度まで自派の思ふ市長をデッチあげる事が出来たのですが、既に味方があの通り分裂して有力なる反對者を出し、従つて大久保を擁立して居る政友系に合流して居る者もあつたのですから、民政側が遽に大狼狽をやつたのも無理からぬ次第でせう。マア民政系はその統制に缺くるところありと言ふのですね』

讀『伍堂元商相は誰れが推薦したのですか』

記『最初永井柳太郎のところへ、民政系の二三の領袖がやつて来て、永井の出馬を促したのですが、永井は自己の適任にあらざる旨を答へた後、若し民政黨中から推薦せよとの事であれば元商相小川郷太郎、元遞相小泉又次郎は如何と話したところ、領袖連の意見頼母木前市長の推薦は同君が東京市民の先輩であつたと言ふ意味で市長に推薦したのである、東京市と小川、小泉兩君は頼母木君よりは關係が稀薄である、それに吾々が市長に推薦せんとする人は成るべく若手で七十以上の老齡でないこと、ツマリ永續性のある人で、二度續けて東京市の門から葬儀を出したくない、その外、目下東京市が直面する東京市交通調整問題の解決、東

京灣築港問題、二千六百年記念奉祝典等の諸問題を解決する力量者でなくてはならぬ。たとへ大臣級でも老人は御免蒙むる——と言ふ事であつたらしいですよ。

そこで永井も止せばよいのにそれなら伍堂君はどうか、と別に深い意味はなく、ツマリ世間話位の程度で話したところ、意外にも即座に『伍堂なら好からう……』と云ふ事になり、それがスラ／＼と運んで伍堂を市長候補として、最初民政系が擁立したのですが、しかし永井も後でよく考へて見ると、伍堂にスラスラと決定した事が如何にも永井自身の本意でなかつたやうな、一種名狀しがたい氣がして仕方がなかつたものらしいです』

讀『愛市同盟とは一體、どういふ人たちの集まりなんですか』

記『市會に於ける民政系を標榜して居る團體で、革新會の三木武吉に對する反對者の集合です。その主將は例の大神田軍次で、彼が采配を揮つて居るのですがなかく結束が強固です。何んと言つても十九名と言ふ市議を擁して、自由自在に飛び廻つて居るらしいですよ。

今度民政系革新會が擁立した伍堂に對する反對の理由は、「吾々は民政派であるが、伍堂君は民政黨の人ではないのだ民政黨の人でもない候補者に對し吾々が反對する事は吾々の自由である」と強硬に反對態度を明らかにして居るので、民政支部では「では民政黨の長老を

出せば反対は出来ぬ譯だね……」と一本突込んだら、さすがの大神田もこれに困つたらしいです』

讀『三木と大神田の關係は如何です』

記『一體に三木と大神田とは、例の大神田の除名問題以來仲が悪くなつて居たものです。その當時、大神田も代議士をやり又、市會議員をやつて居たので、市政内に於ける勢力を争つて居た時代があつたのです。所謂市政の大御所とか何んとか言はれて居た三木に反抗して起つた大神田が、或る問題から黨籍を除かれると言ふ事となつたのですが、それには三木に肩を持つものもあり、大神田を支持するものもありで、大神田に會つて聽いて見ると彼はポロポロ涙を流しながら三木の態度を責める。又三木に會つて話して見ると、如何にも大神田の態度が悪いやうに憤慨する、イヤハヤその當時此の問題でなか／＼賑はつたものですよ。

斯う云ふ工合で、此の兩者の意思はいよ／＼疎隔し、大神田は市會に於ける三木の一大敵國となつたやうな譯です。ツマリ大神田が指揮する愛市同盟の方では、伍堂に對する反對態度を明らかにして居るので、民政系の作戰本部では遽に狼狽し、九日夜東京會館で兩派の重立つた者が會合して、此の際大久保にも立候補をやめさせ、伍堂を引ッ込まして双方白紙に

還元し、更めて他の候補者を探し出さうぢやアないかと言ふ事に、或る程度まで漕ぎつけたらしいですが、最後に到つて崩れたのです。

そして十一日夜は、革新會を主とする所謂市會横斷聯盟が結成されて協議の結果、茲に更めて若槻男を推薦する事に決定した譯です』

讀『それにしては、どうしてあゝいふ結果になつたんでせうか』



記『それがです、不思議なことに改選投票の最後を決する十二

日、民政黨本部に於ける三木武吉一派の態度は若槻擁立に反對であつたのです。そしてそのドタン場に到り、三木君直屬の一派が政友東大會に合流したとやらで之にはさすがお人好しの純民人系の連中を憤激したさうですが、何れにしても是等の連中のやる事は常識では判断が出来ぬやうです。従つて愛市聯盟の一部と三木陣營とが大久保派に合流すれば、それこそ鬼に金棒で、理想候補の敗北は當然過ぎるほど當然ですよ。

何れにせよ、斯うしたやうに市長選挙が長引き、その間、紛

糾混亂が付き物となる事は、やがて彼等自ら己の墓穴を掘る様なもので、必らずや市長は市民の直接選挙、或は都長公選と言つたやうな輿論が再び擡頭する事となるは明白で、さすが市政には無關心の市民諸君も黙つて居られなくなるに違ひありませんよ。では失敬します、さよなら』

—寫眞は若槻禮次郎氏(右)と大久保留次郎氏(左)—

(一五、四、一四)

これこそ日本一最大の問題

(附けたり)

△新聞雑誌の統制と新聞押賣のこと

△相撲協會にも新體制が必要だ

讀者「近頃新聞の統制といふ事が問題になつてゐるさうですなあ、つまり新聞の数が多から減らさうといふのですね、それは紙の節約といふのが主なる目的でせうかね」

記者「無論さうです、併し、それ以外にも大なる目的があります。つまり、新聞社の数が多過ぎると、何か面白くない出来事があつた場合、その筋で差止記事の通知を出す時でも、随分手数がかゝりますからね。そのみならず、下らぬ新聞雑誌にまで、祕密にしておかねばならぬ事柄まで知らせる事になる。そして只ほんの喰ふ目的のためにのみ發行してゐる新聞雑誌には、守るべき祕密も守らずにかういふネタがありますといつて、得たりかしこしで他に喋る場合などあつては甚だ困るんです。だから、新聞雑誌の統制は必要です。

勿論、紙を無駄にしたくない點から來てゐる事も多いので、紙の原料たるパルプなど外國

から輸入するものもありますからね』

讀『成る程、至極尤もですなあ。然し、讀者の立場も考へて統制をして貰ひたいですなあ、新聞の數が多いために私等のやうな月給取りでも三つ取つてゐます。又、私等の會社の重役は六つも取つてゐるといふ事です。兎に角新聞があれば、大抵同じやうな新聞であつてもどれにも目を通して見なくては、氣が濟まぬやうな氣がするものですから、少くして貰ふ事がよゝのですね。』

ところがです、紙の割當が少くなつたといつて新聞社ではこぼしてゐると聞きますが、一面押賣もありますね。「都」だの、「讀賣」だのは、たつた一ヶ月だけでもよいから取つて貰ひたいといつて無理に置いて行く、仕方がないから一ヶ月取るすると又、ついでにもう一ヶ月といふやうな事になります、あれは何とか止めて貰ひたいものです』

記『成る程、御尤もです。然し、今頃はさういふ事は餘程少くなつてゐるはずですが、『都新聞』など、私の友人の宅に押し賣りに、現に何ヶ月か前に來たといふんですからね。併し、これとても何も本社が直接指令を出してやるわけではないのですよ、まあ販賣店關係なんですね』

讀『さうですか！ 帝日のやうに變つた新聞は是非置いて置く必要があるが、他の新聞は出来るだけ數を少くして貰ひたいですね。それからあの子供の雑誌はどうかならんものですか、實に困りますね。』

私等のところでも三冊取つてゐるんです、いくら貧乏人でも子供が可愛いから、他所の子供が雑誌を買つて貰つてゐるのを見ると、親として買つてやらないわけに行きませんからね。それも、役に立つものならよいが、随分下らぬものがありましたね、何でも子供の雑誌が二十何種かあるといふではありませんか、そんなのは何とか三つ位に早くまとめさせて貰ひたいものです。』

時に私は、この頃つくづく感ずる事があります。それは、この間の日比谷の講演會でも野依社長がいはれたが、それは他人から奪はれないものを持たねばならぬ、それは人格と健康と容貌といふことでした。容貌、人格はしばらく別として、健康は本人の心掛け如何では弱い身體も強くなりますから、それには國家が健康章といふものを出したらよからうと思ひますね、その點を大いにやつて頂きたいと思ふのです』

記『大賛成です、何もかもあなたのいはれる事は大賛成です。健康問題は日本一の最大問題で

すよ、月に一回宛全國で市町村字などで、健康會を作つて健康診断を行ひ、そのよき者には、先づ日の丸入りの一寸四角位な國家の制定した健康章といつた記念章を渡す、そして健康が増進した者には、それに一本の筋を更に付け加へるといつた按配式にして、その印の多い者程大日本國民の誇りであるといふ様にしたらよいと思ひますね。嫁を貰ふにも、その筋の多い者程よい嫁が行くといふ風な、風習をつけたらどんなものですか』

讀『全く、御名案です、大賛成です。そして健康の悪くなつた者には、日の丸の印を剝奪するといふ風にしたいものです。』

日本が今や世界第一にならうとするといふのも、結局人口の多いといふところが根本の問題になつてゐますね。實に、その多い人口を 天皇陛下の下に統一されてゐる點が最大の強みですね。それにしても國民の健康が健全でなければいけないのですが、然るに、此頃は壯丁の健康が低下してゐると聞かされてゐるのは、實になげかわしい事ですね。

それにつけて、相撲場といふものを各市町村に大いに作つて、子供の時から相撲を取らせるがよいですね、日本人が戦争に強いといふのは、腰が強いといふのが一つの原因でせう。それには少年時代から相撲を取らせるがよいです、あの衆人環視の中で土俵で男性美を發揮

し、男らしい態度を養成する事は非常に必要な事と思ひます。

そこでどうです、新體制の唱へられる折柄、大日本相撲協會も大いに新體制で行きたいものぢやありませんか』

記『全くです、あなたのお話は至極結構ですね。一月場所ももう二ヶ月半しかないから場所前、必ず問題が起りますね。ああいふ古めかしい、親方制度といふやうなものを變へなくてはいかんです、親方を置くにしても、もつと力士の立場を考へてやらねばいかんです。

第一、少くとも大關、横綱になつたら親方の部屋を離れて、丁番を切らん中に自分で本當の弟子を作るやうにしないでちやイカンですよ。大關でも横綱でも、力士を辭めて年寄親方にならなければ部屋が持てない、弟子が養成出来ない、などといふ馬鹿げた制度を止めなければいかんですなあ。それから相撲協會に對しても、もつと力士が發言權を持てるやうにしなければいかんです。

いまのところでは力士といふものがあつて、相撲協會が出来てゐるわけなんですが、しかも力士は親方の所屬なんだから、協會に對しては直接何等ものがない、若しいふ事があれば親方に直接いへといふ調子になつてゐるんですからね、随分ひどいです』

讀『さうですか、驚きましたね、全く力士の人格といふものを全然認めないんですね。さうすると双葉山のやうな偉い人間でも、一言も協會にいふ資格がないとは、餘りにひどいすなあ。成る程、相撲場を全國津々浦々に作つて相撲を奨励しようといふ私などから見れば、全く大日本相撲協會は根本的に改革しなければいかんですなあ。

この點、「帝日」は相撲新聞といはれてゐるんですから大いにやつて下さい、どうもお邪魔しました』

(一五、一〇、一一)

演説を聴けなかつた代りに

(附けたり)

△天下の公器を賣物にするもの

讀者『どうもひどいですね、辯士が辯士だけに無論超満員と思つたが、六時に行つたらもう這入れんぢやないですか。仕方がなく歸つて來たんですが、電話問答でも一つやらなくちや、腹の蟲が納まらんです。何をしやべつても宜いんですか』

記者『いや、どうも大變御氣の毒な事でした。何さま日比谷公會堂のレコードを作つたといふんですから、文字通り立錐の餘地なく四千は入つたと云ひます、それで這入れずに歸つた者が千人以上と云ひますからね、まア喜んで頂きませう、何なりとも大いにお話し下さい』

讀『どうです、これから讀者だけには特別に入場させる方法を設けられんもんですか。それとも入場料をとつたらどうですか、一人五十錢として、その金を靖國神社か、軍事保護院か何かに寄附したらよいぢやないですか。そして聴衆を整理する必要があらうし、又聴衆の眞剣さを試みる必要もあるぢやないですか』

記『それア名案ですなア、それと同時にもつと一萬人ぐらゐ入り得るやうな大公會堂を造る必要もありますね、殊に新體制となつてから一層國民に言論を聞かせる必要があるでせう。政黨華やかなりし頃のやうにあり得ず、所謂政治運動といふものが下火になるから、その邊の補ひをつけるために、演説講演を盛んにやらせるやうにする必要がありますね』

讀『僕は今日の帝日を見て、都新聞の遣り口の餘りにひどいのに驚きましたよ。新聞社が取引所の株を三萬何千も持つに至つては、實にひどいですな。

福田英助の私有財産として持つたらよさそうなものです、それを堂々と新聞社の名前で持つところに、彼の脱税意思があるのぢやないですか。新聞社には税はかゝらんでせう、假に税が掛かるにしても、新聞は社會の公刊物で公平な批評をする機關でせう。それが營利會社の株を持ち、その社長が取引所の理事長に据り込んでゐるなんといふのは、實に横着至極ですよ。

それでゐて、國家の必要あらば無償で都新聞を政府に献納するとは、なんといふ言ひ分でせう。斯ういふ鐵面皮な男が天下の公器たる新聞の社長だと思ふと情ないですね』

記『それは都新聞自身が、あの政府を譏弄した社告の中にも、新聞は天下の公器であるから云

云といつてゐますよ。もう都新聞のことは今日の電話問答だけでよいでせう、他の問題に移つて呉れませんか』

讀『それもさうですが、餘り癢に障るぢやないですか。自分で新聞は天下の公器だの、太陽の如きものだのといひながら、營利會社の株を三萬何千も持ち、その取引所の理事長に都の社長が据り込む、これを徹底的にやつゝけなくてどうしますか。しかし、帝日は憎まれますな、野依社長は随分恨まれるでせうよ、然し帝日でなければア都攻撃はやれませんか、帝日の新聞界に於ける存在は實に九鼎の重きをなすものと云はなければなりません。

次に他の問題に移りませう。上からの新體制といふ題で野依社長がやらるゝ演説を、私は遂にきけなかつたが、どんなことを言はれたのでせうか。私は宮内省あたりから、新體制を始めて貰ひたいと思ひますがね。外國品の使用を一切やめて貰ひたい、外國使臣などが來ても萬已むを得ない外は、一切國産品で待遇して貰ひたいものです。

それにつけて禮服なども、洋服を今急に廢するには及ばないが、然し從來通り紋服袴ではいけないといふのを斷然改めて、禮服は和洋何れでも差支ないといふことにして貰ひたいもんですね』

記『大賛成です、さういふ風になつて來ると、全く西洋崇拜の弊も大いに改つて來ませう。我
我は必要もない英語を使つたり必要もない英語を、矢鱈に商品や看板などに並べること絶
對にやめさせ度いと思ひます』

讀『全くですよ、私は公會堂をもつと大きくし、國民に辯論を大いにきかせるやうにして、新
體制を意議あらしめるやうにしなければならぬと同時に、世の中が或る意味に於て舊來と違
つて多少窮屈となるのは當然であり、國家のため又自分の爲めでもあるから辛抱するのは當
然だが、然しそれと同時に娛樂といふ事がなければ、人心がユツタリせずにかんと思ひま
すね、斯ういふ意味に於ても小林一三といふ人は、東寶劇場を東京に造り、矢次ぎ早に有樂
座、日本劇場、映畫劇場を造つたりしたが、あれは矢張り先見の明があると思ひますね。

待合や料理屋に限られた娛樂を芝居や活動やレビューなどで然かも家族的に楽しませる仕
組にしたのは、矢張り偉いと思ひますね。公明な娛樂機關がないと、人間は兎角悪いことを
するやうになるでせうからなア』

記『御尤もです、その問題も此間自由論壇に書いてあつたでせう、どうです、この邊で今晚は
失禮させて貰ひませう』

(一五、九、一四)

本願寺からイクラ貰つたか

(附けたり)

△野依社長の講演活動と費用の出所

讀者『少し立ち入つたおたづねですが……併し、それは讀者の誰もが疑問に思つてゐる事と思
ひます。

野依社長はこの頃、盛に全国的に講演に出掛けてゐるが、あれは本願寺から相當の宣傳費
が出てやつてゐるといふ評判ですがどうですか。但し本願寺から假に金が出てゐても、別に
悪いといふものではありませんよ』

記者『成程さういふ疑ひがあるのは、一應無理からぬ事でせう。今度の講演を全国的にやる最
初の計畫と云ふものが、初めから西本願寺の執行職にある梅原眞隆さんに、講演の場所を心
配して頂いた關係からして、そんな噂が出るんでせう。處が、本願寺からは唯の一厘だつて
補助されてゐないんです』

讀『さうですか、内々宣傳費が出てゐるといふ噂がもつばら立つてゐるんですがね。梅原さん

と野依さんとは大變懇意であるから、その梅原さんが西本願寺の上職にあるので、本願寺の方から野依さんに宣傳を頼んだといふ噂さへあるんですがね。眞實なところが伺ひたいものです』

記『それは嘘です、最初は時局講演といふよりは、野依社長の主宰する「眞宗の世界」が本年の十月一日で二十周年になり、「佛教思想」も同日に十五周年を迎へたので、こゝ十數年間全國的佛教大講演をやつてをらないから、この機會にやらうとなつたのが眞相です。

それに就ては、本願寺の別院或はその關係の大きな寺、或は公會堂などを借りたがよからうといふので、梅原さんの盡力をお願いしたといふのが眞相です。この話が持ち上つたのは八月中旬頃だつたでせう。ところが、その後吾が社が熱心に唱へた日獨伊同盟が成立したので、その記念をも兼ねて愈々佛教時局講演といふ觸れ出しでやることになつたんです』

讀『さうですか、併しそれが事實だとすると、本願寺といふものは一體餘程ものの判らんところですね。誰がやつても佛教講演で、野依社長程人を集め得る者は他にないでせう。

つまり、本願寺のやるべき事をお手傳ひしてゐる譯だから、本願寺から宣傳補助費として千や二千圓位は出たらうと思つたんですが、さうぢやなかつたんですか。それなら講演の先

先で、別院なり寺なりから何かお布施でも出るのではないですか』

記『それも有りません、私も二、三ヶ所社長と一緒にに行ってきましたが、さういふ所は一ヶ所もありませんでした。たゞ廣島で或る信者が、宣傳費に使つて貰ひたいといつて百圓出したのがあつたゞけです。それから「眞宗の世界」の記者がついて行つた方面では、札幌の別院から五十圓のお布施が出たさうですよ。それ以外、何處からも一厘の金も出て居らないんです。

別院や、お寺で講演した場合會場費はとられなかつたが、さうでない處では、皆會場費もこちらで費用を拂ひ、宣傳費を一時立替へて貰つたものでも、皆こちらから支拂つてゐるんです。或る説教所の如きは、會場費までもこちらから拂つてゐる位です』

讀『これはどうも驚きましたね、それが眞實とするなら野依さんは随分奇特な方ですなあ。それならその宣傳費用はどこから出るのですか』

記『それは宣傳費としては、特別にどこから出てゐなくても、野依社長の事業を後援する人がありますよ。何さま「實業之世界」を三十四年間も經營して居り、其前には「三田商業界」や「活動の日本」などを長い間やつてゐた關係上、同情者がありますからね。さういふ方面

から出た金を、ドシ／＼使つて行くんですよ』

讀『さうですか、感心なものですなあ。立ち入つたことをおたづねするんですが、「大日本眞宗宣傳協會」、「佛教思想普及協會」などには、基本金か何かあるんですか、雑誌の方も相當儲かるんですか』

記『野依社長のやつてゐるもので、儲かる事業は一つもないでせう、基本金などもないでせう。金はなくても仕事の方をドシ／＼先に進めて行くんです、そしてそれでどうにかやつて行けてゐるんですね。しかも金のある人達がやれんことを、ドシ／＼やつてゐるんですから面白いぢやありませんか』

讀『成程、偉いもんですね。佛教宣傳ばかりでなく、時局の講演とか、なんとかの記念講演といつた風に、「帝日」なども他の大新聞のやれん事でも平氣でやつてゐますね、一體どうしてやつて行くんでせうか』

記『それはです、講演會などやる時は「帝都日日」の方では、何々記念號といふやうなものを出して特別の収入を得て行つてゐるんです。そんな事や、援助金など出す人があるので、まるで計算など考へずに、思ひついた事をドシ／＼實行して行けるわけなんですよ』

讀『こんどの佛教時局講演會で、一體どれ位の宣傳費を使つたんですか』

記『さあ、東京始め全國十六ヶ所で、三千圓位使つてゐるのではないですか。然し、そんな事は野依社長は屁とも思つてゐないですよ、何でもかんでも宣傳して、人を集めて話を聞かせ、一人でも二人でも自分の説の共鳴者が出来ればそれでよいんですね』

讀『さうですか、その位の金で行けるもんですかね、案外かゝらんもんですね』

記『それは汽車賃がパスのために助かります。しかし到る處で「帝日」やその他パンフレットを配つたりしてゐますから、あなたにさういはるれば、成程もつとかかつてゐるかも知れませんが、併し、こつちの方では到るところ未曾有の盛況を呈して、佛教の思想と信仰と時局の認識とを充分に與へて、如何なる困難があつても國民は不足の不の字もいふべきものでない、日本の前途は斯く／＼たるべきものであるといつて、凡ゆる方面から時局認識を與へて大いに國民精神を昂揚し得たつもりですから頗る満足してゐる譯なんです。何處に行つても講演は大盛況で、未だ嘗てこんな熱烈な講演は聞いた事がないといふ感銘を與へて來ました。まあ、それがせめてものなぐさめになるんでせう。

記念講演は豫定の如く十一月五日、大分市の講演をもつて一應打ち切つたのですが、野依

社長の郷里大分縣の方々から縣下で中津市と大分市でやつたのなら、自分等の郡でもやつてほしいといふ喧ましい要求があり、且つ京都の實業組合聯合會からも講演の依頼があつたので、十八日に既報（十一月二十三日）の如く三度目の講演に出かけたわけなんです。野依社長は明二十六日の午後四時の汽車で歸京し、上野精養軒の祝賀會に臨むわけです』

讀『隨分活動するものですね』

（一五、一一、二五）

買收費は二萬圓に非ず五萬圓也

△古い歴史ある東京毎日を帝日が買收（附けたり）

讀者『私は丸ノ内の某會社に勤めてゐるものですが、私の社に配達さるゝ或る新聞内報によると、帝都日日新聞は東京毎日新聞を二萬圓で買收したと書いてありますが、本當ですか』

記者『それは嘘です。買收したのは事實ですが、二萬圓ぢやありません、正に五萬圓です』

讀『それぢや、新聞内報の發表した金額の倍以上ぢやありませんか。どうして一體、そんな間違ひが生ずるのでせうか、可怪しいですね。あなたの方の言ふ事が、掛値があるのぢやありませんか、本當のことを言つて下さいよ』

記『斷じて間違ひありません、實は金額など明瞭に言ひたくないのですが、内報に誤りが發表されてあなた方から質問がある以上は、之れを明かに言はん譯にはゆきませんからなア。嘘だと思ふなら、警視廳の檢閲課の主任に電話をかけて聞いてごらん下さい、間違ひありません。警視廳がその買收金額を知つてゐます、警視廳でも金額を明かにいふことは嫌といふでせう、けれども、一方に間違ひが傳へられたからには、帝日の立場を明かにするために、本當な事をいつてくれるでせう』

讀「あなたの方で、そうまで言はるゝならば、そりや本當でせうねえ。五萬圓といへば相當な金ですが、輪轉機やら活字やら、全部みな入れての話ですか」

記「もうかうなれば、何もかも明かに申した方がいゝでせう。野依社長は向ふの言ひ値次第、一厘も値切らずに買ったのですよ。吾々から見れば、確かに二萬圓としても斷然高いと思ひますがね。そんな事をいふと社長に怒られるか知りませんが、社長はさういつた方面の掛引は下手らしいですよ。そこで内容ですが、活字も輪轉機も受取つたわけではなく、五萬圓といふのは、東京毎日新聞の發行及び營業權を全部買収したわけなんです、すいぶん高いもんですよ。然し野依社長としては其時の情勢と、其他、何か深い考へがあつて、少々高くてもかまはないとして買収したんでせう」

讀「さうですか、成る程。然しいづれにしても、新聞統制で小新聞の存在がなくなると心配された折柄に、帝日のやうな異彩ある新聞が斷然、残るやうになつたのは愉快ですね。この意味において、五萬でも十萬でも二十萬でも三十萬でも高くはないと言へますね。どうもお邪魔しました、吾々も帝日の最負として蔭乍ら聲援しますよ、まア大いにやつて下さう」

(一五、一一、三〇)

風見章、山下太郎の媚を蹴る

(附けたり)

△東京朝日も随分インチキだ

△大西の牧容と帝日の意氣

讀者「僕は帝日のファンですが、帝日も新聞戦線で他社のことをすばく素つ破抜いてゐるが、其辭自分のところの間違ひは平氣とは云はぬ迄も、然し誤植やらニュースを落すやら、相當新聞戦線ものもありますね」

記者「さうです、お恥しいです。然しそれについては今までも辯解しておいたやうに、何分にも小新聞、資本なし、手不足だから思ふ様に行きませんよ、そこは御容捨願ひます。然し重要な點は間違ひないですからね、主義主張の點はお認め下さるでせう」

讀「それやさうです、大いに認めますよ。全くその點は感心してゐるんです、資本なしの新聞社だから、廣告でも何でも彼でも取り入れるかと思へばさうでなく、なか／＼見識をもつてゐるのには感心しますよ。」

それから例の大西土地の廣告ですね、帝都日日は断じてあれを取らなかつたさうですね、誇大廣告、インチキ廣告として断然拒絶したといふのは感心しました。然るにどうです、たうとう大西は三ヶ月ばかり警視廳で取調べられて、たうとう一昨日（七月十二日）收容されたさうぢやないですか」

記「さうですな、あれは我が社に先見の明がありましたな。何さま、變な誇大廣告をするんですからね、私の方では一時は實際の土地を調査に出かけて、大西のインチキを解剖したくらいでしたよ」

讀「さうでしたね、ところがどうです、東京朝日新聞なんか記事の精査部などといふものを設けて居り、また廣告文の穩當とか、不穩當といふやうな點までも、時によつてやかましく云ひ、如何にも嚴格を装ひながら、あの大西土地の出鱈目廣告を平氣でのせてゐたんですからね、實にどうも、いゝ加減なものですよ。朝日新聞の様な偽善はありませんよ、正しく見せかけておいて、その實、随分インチキをやるんですからなア。その甚だしい一例は、政友會總裁問題の時でしたよ」

記「さうですとも、「實業之世界」が朝日に廣告を申込んだ場合などでも、その中に或る攻撃

文がのつてゐるとすると、その攻撃文の廣告を削除しなければ掲載が出来ないなどといふ事實もあるんです。朝日としては、攻撃したものの、廣告はのせないと、上品振つてゐるんですよ、滑稽ぢやないですか。

昨日（十三日）の朝日に政友會中島派の解黨問題の記事が出てゐたが、あれにも亦出鱈目がありますね。あれで見ると、中島總裁と島田俊雄の兩人のみが即時解黨に反對で、他の長老は皆即時解黨論者だと云つたやうなことを書いて居ります。あれは出鱈目ですよ、長老は皆、中島總裁の意見によるべしとしてゐるんです、現に山崎でも、堀切でも、熊谷でも、望月でも皆さう云つてゐるんです、前田の意見は聞かないから知りませんがね。つまりあの朝日の記事は中島が解黨を遊つてゐる、愚圖ついでゐるといふ風に、讀者に悪感を持たせようとして書いたものとしか受け取れませんね」

讀「どうもさう思はれますね。時に、風見章といふ男は痛快な奴ですな、とにかく無所屬で茨城縣から出て来る奴ですからな、面白い話がありますよ。これは私自身が、交詢社によく行く或る政治家から聞いた話だから間違ひありませんが、話の内容は山下太郎を悪く云ふ事になります、お差支へありませんかね」

記「山下太郎は二人ありますが、どつちの方ですか。山下汽船の方なら、内の野依社長が懇意ですから、國家問題でない限り悪く云ひ度くないですね」

讀「いゝえ、御心配御無用、滿洲成金のあの山下太郎ですよ。あれがです、先日交詢社で風見を見て風見君、近日に飯を一緒に食ひたいがと云つたもんです。風見は僕は飯食ひは嫌ひでね、百姓の子に生れたんで、昔から只の米を食つてゐるから飯食ひなんか有難く思はん、と云つたんださうです。そこで山下は碁はどうかねと云ふと、風見は碁は嫌ひだと云つた。そこでまた山下は將棋はどうかね、と云つたら、風見は將棋もやらんね、と木で鼻をくづつた挨拶をしたので皆が痛快がつたといふ話です。

面白いですな、山下と云へばあれは今三千萬位あるんぢやないですか、もつとあるかも知れないが、川村が滿鐵總裁の時同郷とかいふ關係で滿洲に行き、貸家かなんか建てたのが當り、相場に手を出してそれも當り、鑛山も當り、儲けた金でだん／＼と實株の見込買をし、それが皆當つたんです。そんな男ですから、風見が新黨で中心に動いてゐるから、一つ取り入らうと思つたんでせう。それを風見から、小氣味よくはねつけられたんだから痛快ぢぢやないですか」

記「全く痛快ですな、私が凡そ嫌ひと云つてあのツ／＼辯の山下太郎位、嫌ひなものはありませんね、キザな男ですな、女以外には金使ひを知らぬといふ男です。例の市丸が淺草藝者で歌謡曲に乗り出した頃、大變な金を出してもにした事實がありますね。尤も金次第でどうでもなる市丸とはいゝ取組ですよ、市丸といへば、あれは大倉喜七郎や根津嘉一郎、その他數十人の御親戚があるといふ噂ですな」

讀「僕は市丸の歌は好きですがね、然しまアあゝいふのは金持とどうかならなけりや賣出せぬのですから、そこは少しく同情したらいゝでせう。ではこれで失禮します」

昭和十六年一月十九日 印刷納本
昭和十六年一月廿二日 發行

【定價一圓三十錢】

編著者 東京市芝區芝公園五號地一〇
帝都日日新聞社編輯局

代表者 野依秀市

發行兼印刷者 永井耕一
東京市芝區芝公園五號地一〇

印刷所 東京市芝區田村町二丁目一四
天沼印刷所

發行所 東京市芝區芝公園五號地一〇
帝都日日新聞社

發賣所 東京市芝區芝公園五號地一〇
秀文閣書房

電話芝(43)五五五〇番
五五五五番
五五五七番
振替口座東京五八五七番

野依秀市氏新快著

事變最後段階へ突入

支那事變勃發して茲に三年有半、吾々國民の堅忍持久の覺悟は益々固いものがある。

然し乍ら汪兆銘氏の新政府を承認して、日華基本條約も既に締結せられ、一方には又、日獨伊同盟の成立があつて、嚴然世界の形勢を制すべき立場にある今日、わが日本は猛然起つて事變解決の最後の段階に突入し、進んで世界局面の打開に當るべきではないか。

本書の著者はこの事變が我國開關以來の大問題たる意義と現實を認識してこれが處理のために渾身の熱情を傾けて來た。即ち内には國內の革新について上層重臣層の反省を促し外には天下に率先して日獨伊同盟の締結を呼號するなど不斷の努力を續けて來た。而して内外の情勢は結局著者の言ふ通りに歸着しつつある。此時の當つて愈々事變の最後段階へ突入すべきを痛感した。著者が之れを國民に訴へんとして世に送るのが即ち本書である。

— 四六版上製函入三五六頁 定價一圓三十錢 送料十四錢 —

東京芝公園五號 秀文閣書房 振替東京五八七五七

國民必讀の名著

野依秀市氏新著

南北現地要人を敲く

四六版 上製函入
本文 三五五頁
定價 一圓八十錢
送料 十錢

會談に於て絶妙の手腕を有する著者が、支那現地に於て西尾大將、板垣中將等の出先軍官民及び汪兆銘、周佛海、梁鴻志、王克敏、徳王はじめ北中、南支各地の要人六十餘人と會見し、彼等をして思はず眞實を語らしめし會談録と各地に於ける眼光鋭き視察記とを盛つたものが即ち本書の内容これ程興味深く、しかも現地の眞相を傳へる好著はあるまい。……

國家社會三十二年(自明治四十二年(至昭和十四年)間)の出來事は一切判る

財界三十年譜

上・中・下
三卷完成

名は財界といふも、財界各般の事はもとより宮廷・政治・外交・軍事・社會各方面に亘り國內國外三十二年間の出來事は掌に指すが如くにワカる實業之世界社が創刊三十周年記念として世に送る一大史的文献である。：
□上卷 六二四頁・中卷 九四〇頁・下卷 一六一四頁 □ 總定價 五拾圓
内容見本申込次第送呈す

東京芝公園五號 實業世界社發行 振替東京三三四三

東京芝公園五號 秀文閣書房發行 振替東京五八七五七

好評嘖々

今泉定助 植木直一郎 藤井甚太郎 渡邊世祐 笹川種郎 渡邊幾治郎 講述 四六版 二三八頁 定價一・三〇 稅一〇

皇國二千六百年史講話

外には世界の大變革、内には國家の新體制を整へて眞に劃期的な國運進展の方途に邁進せんとしてゐる。此時に當つて國民精神の淵源であり國體觀念の基調をなす國史を説いて現下國民に最も適切な歴史讀本として本書を世に送る。讀者必ずや津々たる興趣の裡に感激を新たにすであらう。敢て獎む！

雪嶺・三宅雄二郎先生著

變革雜感

この騒然たる世情の裡に諸相を達觀してものせられた隨感隨想凡そ百八十餘篇を輯めたのが本書である。

雪嶺・三宅雄二郎先生著

人の行路

生活の伴侶、處世の指針として何人も座右に備ふべしとは、各方面諸名家の擧つて推獎讚稱するところである。重版また重版。

菊判 布裝五二六頁 定價 金 三 圓 (送料二十二錢)

野依秀市重版書

日本に鞭

新體制下日本の進路を明示し、支那事變歐洲戰の對策、國內問題等一切の解決策は本書のみにあり、時局讀本の最高峰

四六版 四七六頁 一圓三十錢 送料十錢

日獨伊同盟と日本の將來

支那事變以來の著者の所論は殆んど適中せざるものなし、その熱烈なる愛國の至情と透徹せる天才的頭腦をもつてものせる名快著

四六版 三五二頁 一圓二十錢 送料十錢

英國打倒歐洲參戰の主張

暴戻老獪なる英國を討て！ 而して援將の元兇を叩きつけることによつて眞の支那事變解決ありと呼號する著者獨特の快著

四六版上製 三七九頁 一圓五十錢 送料十錢

重臣を衝く

政治貧困の要因重臣の行動を衝いて時局百問題を論斷し、又國內問題は事變處理に對し國民の嚮ふべき途をハッキリと説いたもの

四六版 四二〇頁 一圓二十錢 送料十錢

信 仰 生 々 の 書

野 依 秀 市 氏 著

歎異鈔味ひの記

四六版二七七頁
定價九十二錢
送料十錢

親鸞の信仰を最もよく表現せるもの「歎異鈔」以上の書はない。今日まで歎異鈔に就ての著書は多く現れたが、真に親鸞の信仰そのものを味つたものを見ないがこゝに信仰一點張りを以て聖人の信仰に合致せる著者は「歎異鈔」を味ひ盡して公にした本書は正に天下一品の寶玉文字、言々生命に充ちて、讀者に信仰的一大活力を與へるものである。

梅 原 眞 隆 氏 新 著

眞宗小觀

四六版一一〇頁
定價六十錢
送料六錢

あらゆる人に安心立命を與へる眞實の宗教として淨土眞宗ほど徹底したものはなく、現代の實際生活に最も適切な宗教は實にこれである。本書は眞宗教學の權威梅原先生が誰にも判るやうに述べられた信仰手引書である。端的に眞宗の何たるか信仰の眞髓は奈邊にあるかを説いた平易明快の書である。

411
203

終

